

# やまえこ

2013年  
7月号

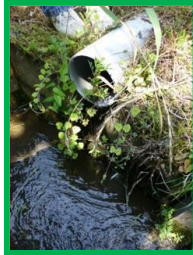
URL:<http://www3.to/yamaeco>

メール [ryuoh-mtm@maia.eonet.ne.jp](mailto:ryuoh-mtm@maia.eonet.ne.jp)

## “農地に水を運ぶしくみ・水路や田んぼの生ものを知ろう” 山内水路探検 パート1 2013.6.8

山内においての「田んぼの水はどこから来ているの？」山内水路探検を行いました。やまえこの行事にしては好天に恵まれ、暑いくらいのお日様とそよ風を感じながら、水路をたどりまわりました。行く道中では、いろいろな生き物に出会い、なかなか前に進まず、時間が足りませんでした。帰ってからのまとめもできました。用水路と排水路の兼用水路が多いことがわかりました。時期が良かったのか、オタマジャクシやカワニナ、樂し、イモリ、カワムツに田んぼの中で出会えました。

源流である川から水を取り上から下の田んぼへと順々に水口を通して用水路、排水路をたどりながら水は利用されていくのです。道路の下をくぐっている水路、坂道と逆行している水路、ポンプを使っていない自然の水路、承水路など自然と先人の知恵を残している水の道に感心しました。「昔の人はどうやって作ったんだろう?」「たいへんだっただろうな」と、分からないこともまだあって……。もう少し皆で勉強していきましょう。



用水路、排水路、生き物観察、水路の速さ調べ、井水のために岩に穴をあけて作られたマンボウ、ゴール前は長い水路、そしてきれいな野洲川半日かけて歩きました。

### ちょっと勉強(インターネットより)

もともと用水路生態系(田んぼも準ずるらしい)は……日本に農業が導入された弥生時代以降 2000 - 3000 年の間に、この特殊な環境に巧みに適応し、農業用水路の環境を生活に組み込む生物が数多く存在する。まず、比較的流れが緩やかで水深が浅く日当たりが良いため、プランクトンやコケなどの生育がよく、また土の河床ではミズなども生息可能で、それを食糧にするタニシやオタマジャクシ(カエルの幼生)、魚類のメダカやヨシノボリなどが住み着く。すると、それを捕食する甲殻類のザリガニ、昆虫のタガメやヤゴ(トンボの幼生)などの生活を支える。さらに、それらを捕食するコウノトリやサギなどの生活も支える。人為的に造られた環境が、長い年月をかけて自然と一体化し、里山のそれと同様に、独特の生態系を築き上げてゆくのだが……。ところが、明治以降の近代になると、この状況が急激に変化する。土木技術の進展に伴う水路のコンクリート護岸化や、堰による水路の分断、暗渠化による日光の遮断、田畑での農薬利用などにより、稲作と共生してきた生物はその生活環境が激変し、生命が脅かされることとなる。さらに近年の都市化による生活排水・工業排水の流入や田畑の宅地化が追い打ちをかけ、その結果、かつてありふれた存在であったメダカやタガメなどが日本人の生活から姿を消し、さらには食物連鎖でその上位にいたコウノトリやタンチョウなども姿を消しはじめ、それぞれ現在では絶滅が危惧されるまでになり、トキのように絶滅したものも少なくないのです。